

森づくり最前線

群馬森林管理署 水沼森林事務所 地域統括森林官 玉井 宏

私が勤務する水沼森林事務所は、群馬県東部の桐生市とみどり市に所在し、面積は約7千haです。百名山で有名な赤城山が北西の稜線上にあり、栃木県日光から流れる渡良瀬川が管内中央部を流れ、近くには市営のキャンプ場が2カ所所在し、国産材の供給の場であるとともに、登山やハイキングなど市民の憩いの場として親しまれています。



赤城山はどこからでも見えるので、県民の道標です

しかし、困ったことが一つあります。それは、人工林にシカやクマによる獣害が拡大していることです。現行の対策として防護柵、単木被覆、薬剤塗布などを行っていますが、経費は初期保育費の多くを占めています。



獣害を受けたスギ壮齢林

当所では、剥皮被害対策の発想を転換し次のような取組を試行していますので紹介します。

当事務所が着目したのは皮剥ぎがされにくい有用広葉樹の植栽とこれを通直に仕立てる造林方法です。

広葉樹は針葉樹と比較して一般的に木材として利用されるまでの成長期間や製材品への乾燥の容易さでは劣るものの、住宅資材や家具材などでは広葉樹独特の質感や耐久・加工性で優れており、将来に渡って需要は高いと考えます。

中でも、木理の美しいケヤキや水湿に強いクリ、キノコ栽培にも応用できるナラなどは利用価値の高い樹種です。

これら広葉樹の利点は、枝葉を食害される高さに生長するまでは薬剤塗布などの対策を施す必要はあるものの、樹高が3メートルほどになれば獣害対策はほぼ必要なく、また、ぼう芽更新や埋土種子からの実生も見込め、造林経費の大幅なコストダウンが見込まれます。



クリの木は意外と通直に仕立て安い

このようなことを踏まえ、当事務所管内では試験的にケヤキを植えています。

広葉樹の植付本数を減らす一方で通直な材を得るために、天然に生じた樹木と競合させて初期成長を縦方向へと導くことが必要と考え、天然生稚樹のうち有用広葉樹は選木して保残することも行っています。



造林地内のケヤキ保残木

森林は、多くの動物の住み家や食料など、生態系の基本であり、水源涵養機能や国土保全機能など私たちの生活にも直接関わっています。健全な森林を維持していくためにも、個体調整なども含めた獣害対策の効果的な取組を考えていきたいと思っています。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393